1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591000033		
法人名	社会福祉法人 大和福祉会		
事業所名	グループホームやまとの里		
所在地	山口県光市大字岩田267番地		
自己評価作成日	平成29年5月25日	評価結果市町受理日	平成29年9月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成29年6月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の広大な敷地内の一角に位置しており、常に法人内の他の事業所と連携を取り、行事参加など協力関係を築いています。一事業所では難しいと思われる、運動会や花火大会などの大きな行事にご家族と共に参加しています。ボランティア慰問なども、ディサービスセンターへ出向き見学したり、お彼岸の時期には、おぼぎバイキング、お寿司バイキング等の法人の取り組みに参加しているため、行事は多彩です。入居されている方々の要介護度は平均3.5とかなり高いのですが、オムツ着用の方は居られず、全員がトイレにて排泄を行っています。リハビリパンツ、パットは使用していますが、基本的にはトイレ誘導を行い、立ち上がっていただき、便座に座っていただいて排泄しています。現状を維持しつつ、お一人お一人の今できること、できる力をしっかりと把握し支援して行く事を目的とし、職員一同日々頑張っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

24時間データシートの活用や24時間支援シートに日常の関わりの中での利用者の様子や言葉、会話や職員の気づきなどを記録され、利用者の思いや意向の把握に努められ、介護計画に活かしておられます。24時間支援シートに介護計画を記載され、毎日計画の実施状況を記録することで経過観察をされ、半年ごとの評価表作成で見直しをされ、利用者一人ひとりの現状に即した介護計画を作成しておられます。集団レクリエーションの中でも個々の力が発揮できるように職員が個別に働きかけたり、気分転換に外に出たい利用者と一緒に出かけたり、玄関先のベンチで気の合う同士おしゃべりや体操をされる等、一人ひとりのしたいことやできることを把握されて、個別に楽しみごとや活躍できる場面、居場所づくりをされて利用者が喜びや張り合いのある暮らしができるように支援されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた環境のもと、その人らしさ、家族の絆を大切に、入居者のペースに合わせ、安心できる暮らしを提供します」廊下掲示板にやまとの里運営理念を掲示しています。日常のケアの中に理念が実践できるよう、職員は心がけています。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所廊下の掲示板に掲示している。職員は理念を確認して共有し、日々のケアの中で実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同法人内のデイサービスと連携して、音楽や踊りなど地域の方々のボランティアの慰問活動を見学させていただいています。地区の運動会見学なども行い、地域とのつながりを継続できるよう支援しています。	利用者は近くの小学校の運動会を見学したり、他法人施設のフェスティバルに参加している他、法人主催の夕涼み会や運動会に参加し、来訪している地域の人と交流している。法人の施設に来訪しているボランティア(日本舞踊、カラオケ、楽器演奏、小学生の演劇やクイズなど)の演技を見学し、交流している。事業所には紙芝居のボランティアが来訪し交流している。法人敷地内を散歩してお地藏さんにお参りしたり、併設のデイサービスセンターの利用者と交流をしているが、日常的に地域の人と交流する機会は少ない。	・地域とのつきあい方の工夫
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	常時見学相談を承っております。また運営推進会議を通じ、民生委員や地域代表の方々の協力を得て施設の情報を発信して頂いています。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全員で自己評価に取り組みました。職員1人1人が評価に取り組むことで、外部評価と日頃のケアのつながりを見出し、意義を理解することができました。	管理者は評価の意義について職員に説明し、評価項目ガイド集はいつでも閲覧できるようにしている。全職員で評価項目を分担して書類に記入し、管理者がまとめている。前回の外部評価結果を受けて、運営推進会議の意見から地域の小学校の運動会に参加したり、会議のメンバー拡大として家族が2、3名参加しているなど、評価を活かしてできるところから改善に取り組んでいる。	・職員一人ひとりによる全項目での自己評価への取り組み

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第4月曜日に、地区代表、包括支援センター職員、ご家族、民生委員の方々に参加していただき、様々なご意見を頂戴し、サービス向上のための話し合いを重ねています。会議の場で評価の報告を行い、取り組みの進捗状況などを毎回行い、話し合いを行うようにしていきたいと思っています。	会議は2ヶ月に1回開催している。利用者の状況や事業所の取り組み、事故報告等をして、質疑応答や意見交換を行っている。参加者からの意見を活かして、小学校の運動会の見学に利用者が参加している。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の高齢者支援課の職員が運営推進会議のメンバーとして参加されています。事故や行事の報告など現場の実情も交え、報告しています。会議の場や電話などで相談、助言を得ることもあり、協力関係を築けるよう取り組んでいます。	市の担当者とは電話や直接出向いて報告や情報交換したり、相談して助言を得るなど協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは運営推進会議で情報交換しているなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関を開錠しており、出入りが自由になるようにしています。身体拘束については、法人のマニュアルがあり厳守しています。法人内で年2回身体拘束についての研修があり、スピーチロックを含め学ぶ機会を設けています。	職員は、身体拘束について年2回、法人研修で学び、正しく理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はしていない。外に出かけたい利用者には職員と一緒に出かけている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で年2回虐待についての研修があり高齢者虐待防止関連法について学んでいます。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在権利擁護や後見人制度を利用している方はいませんが、受け入れをしている法人内の施設管理者より、資料の作成と勉強会の実践をしてもらっています。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、管理者がご家族、場合によっては同席する入居者様に重要事項説明書をひとつひとつ丁寧に読み上げ、説明し了承を得ています。ご家族や保証人の方は十分に納得、理解されています。また改訂の際には文書で連絡を行い、納得していただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気づいた事を気楽にお知らせいただけるよう玄関にご意見箱を置いています。苦情の受け付け体制については重要事項説明書にて明記しており、説明納得していただいています。面会時に、意見を伺ったり、入居者様の様子を月に一度担当がお手紙でご家族にお知らせすることで、気軽に相談、意見を承ることが出来るような関係作りを目指しています。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明し、周知している。玄関に意見箱を設置している。面会時や電話等で、家族からの意見や要望を聞いている。利用者を担当している職員が毎月、利用者の様子を手書きにした写真入りの手紙を家族に送付しており、家族が利用者の状況を知ることができ、意見を言いやすい工夫をしている。請求書送付時に運営推進会議の案内を出し、家族の参加が増えている。ケアに対しての要望にはその都度対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を聞き、出来るだけ運営に反映できるよう心がけています。月に一度の主任会議、管理者会議の場で職員の意見や提案を管理者が代表して報告しています。	管理者は、月1回の職員会議で職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中でも聞いている。職員の意見は主任会議や管理者会議で法人に報告し、反映させている。行事については職員が起案書を書いて提出し、法人の許可を得て反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	リフレッシュ休暇が導入されています。代表者は職員がやりがい、向上心を持って働くことが出来るよう、努めています。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修を受ける機会が毎月確保されています。また介護福祉士など資格取得のための研修もあり、希望者は毎週参加できるようになっています。外部研修についても、お知らせが来たら掲示板に貼り、希望者を募っています。	外部研修は、情報を掲示板に掲示し、職員に参加の機会を提供している。法人研修は、年間計画があり、毎月勤務者以外の全職員が受講している。年2回事業所が担当して研修を実施している。全職員で内容を検討し、担当職員が資料をつくり、講師を務めている。介護福祉士の資格取得の勉強会があり、働きながら技術や知識を身につけるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域ケア会議や、グループホーム協会の会議に参加し、他事業書の同業者と交流し、情報を得ています。職員も法人内の他事業所の職員との交流があり、勉強会や運動会、外出イベントなどの活動を通じてサービスの質の向上を目指しています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず複数回面談し、ご本人の思いを傾聴し、要望に応え不安を無くすよう努めています。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や思いを聴き取り、グループホームやまとの里の説明をすると共に、出来る限りご意向に沿うことができるよう努めています。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の常態、ご要望から支援方法を見極め、法人内のほかのサービス利用についても説明、考慮しています。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事作業やレクリエーションを一緒に行い、会話を楽しみ、良好な関係作りの構築に努めています。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気軽に来苑いただける関係と、日常報告のお手紙を毎月送ることにより、ご家族と密な関係作りを行っています。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に面会して頂くと共に、ご一緒に外出をして頂き、地域のいろいろなところへ出かけることが出来るよう支援しています。またご家族や親戚、兄弟、知人の来訪があり、ご一緒に外出されたり、外出行事でご家族の参加も呼び掛け馴染みの関係が途切れないよう努めています。	家族の面会や親戚の人の来訪がある他、手紙を渡したり、年賀状や暑中見舞いを出す支援をしている。家族と一緒に外出して自宅に帰ったり、外食、馴染みの店での買い物、墓参りに行くなど馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	書く入居者様の個性を把握し、その時度に着応じてこの能力を生かしていただき、トラブル時に離れる空間も作り、スタッフも入居者様が孤立せず、支えあう関係作りの支援を行っています。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人の性格、嗜好を細かく伝え、相談には柔軟に対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族から意向を聞き取り、日々の生活でご本人の意向が把握できるよう努めています。	フェースシートやアセスメントシート、24時間データシートを活用している他、24時間支援シートに日常の関わりの中での利用者の様子や聞き取った言葉、職員との会話、職員の気づきなどを記録して、思いや意向の把握に努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当のケアマネジャー、ご本人、ご家族から情報を収集し、これまでの暮らしの把握に努めています。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の毎日の状態を日々のケア記録に記し、細かいご本人の状態をスタッフ間で共有し、現状把握に努めています。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度スタッフミーティングにてサービス担当者会議を行い、ご家族やご本人の意向をスタッフ間で把握し、意見を出し合って、現状に見合ったケアプランを作成しています。	法人看護師や管理者(計画作成担当者)、職員が参加して担当者会議を開催し、本人の思いや家族の意向を参考にして話し合い、介護計画を作成している。24時間支援シートに介護計画を記載して、毎日実施状況を記録して経過観察を行い、6ヶ月ごとに評価表を作成して見直しをしている。利用者の状態に変化が生じた場合はその都度見直しを行い、現状にあった介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケア記録や業務日誌、申し送りノートを活用してスタッフ間で情報を共有し、実践につなげています。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族、地域のかたがたを法人内の食事会等でお迎えし、交流の場を作っています。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同法人内のディサービスと連携して音楽や踊りのボランティアの慰問見学を行っています。近隣へ季節の花を見て楽しんでいただくなどの外出支援を行うことで、暮らしの楽しみを支援しています。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様全員が、協力医療機関をかかりつけ医としており、毎週水曜日に法人の特養に受診に来ているドクターにバイタル値や心身状況を施設ナースを通して報告しています。緊急時には施設ナースが協力医療機関と連携し対応に当たっています。	利用者は、全員協力医療機関をかかりつけ医としている。法人看護師と連携を図り、診察が必要な人には毎週水曜日に併設施設に来院しているかかりつけ医の受診支援をしている。受診時には日々の体調管理をしている法人看護師が医師に情報を伝えている他、他科受診には職員が付き添い、日頃の情報を伝えている。年1回協力医療機関を受診し、健康診断を受けている。緊急時には法人看護師が協力医療機関と連携して対応しているなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日定時に施設ナースに排便や心身状態の報告を行い、入居者様が適切な医療を受けられるよう支援しています。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、付き添いをおこない、入院に到るまでの経緯、必要な情報を提供します。入院中の医療方針などを把握し退院後には医療関係者やご家族の情報を通して、留意点などを把握して対応に当たっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人の看取り介護指針に基づき、終末期ケアが必要になった場合には、ご本人やご家族の思いを確認し、医師、看護師、栄養士、介護職員で話し合い、その人らしい人生を全うできるように、協働して終末期ケアが行えるようにしています。	重度化や終末期に向けた法人の指針があり、事業所のできる対応について契約時に家族に説明している。重度化した場合は家族の意向を確認し、主治医や看護師、栄養士、職員と話し合い、方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。職員は看取りのケアについて研修で学んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故報告書を作成し、対応策を職員間で話し合い、再発防止に努めています。また職員1人1人が緊急時や事故発生時に備えて実践力を身につけられるよう、日々の中で訓練を行っています。	事故が発生した場合は、その場にいた職員で事故報告書に事故の状況や原因、職員間で話し合った対応策を記録し、管理者に提出している。報告書は職員間で回覧し、共有して一人ひとりの事故防止に努めている。消防署による救急救命講習を年1回受講している。法人看護師の指導でノロウイルスの嘔吐物処理方法の実践訓練を行っている。全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているとは言えない。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回火災による避難訓練と地震、水害などの災害による訓練を行っています。避難場所が洞法人の特別養護老人ホームなので法人全体で避難訓練を行っています。	避難訓練は法人他施設と合同で年2回実施している。1回は消防署の協力を得て、日中の地震発生時の火災を想定した避難訓練を実施し、もう一回は消防設備業者の協力を得て、夜間の火災を想定して実施している。法人が地域の連合自治会と協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人間としての尊厳を失わないような対応を心掛けています。月に一度行われる法人内の研修でも、接遇や尊厳について学習する機会を設けています。	職員は法人研修で接遇や尊厳ある関わりについて学んでおり、利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でご本人の意向を探り、ご本人の思いを大切に、自己決定の場作りを行っています。自己決定できたり、自分の思いを表出できるような関係作りがスタッフと、入居者様お一人お一人の間で出来ています。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースを大切に支援を心掛けています。ご家族が来苑されたときには、居室にて心ゆくまでおしゃべりを楽しんでいただいています。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度出張理容を利用して身だしなみを整えて頂いています。また外出や行事の際には、それに見合った装いになるよう支援を行っています。スタッフやお一人お一人の洋服のお好みをよく把握しています。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員も入居者様と同じ物を一緒に食べています。法人内ではつきに1度給食会議を行っており、管理者が出席し、おいしく食べていただけるように日頃より出ている入居者様の意見を出し、話し合っています。また月に一度の松華堂弁当も喜ばれています。食事の際のテーブル拭き、副菜の盛り付け、また食後の食器洗い、トレイ拭き等、お一人お一人の能力にあった作業を依頼し、職員と協働で行っています。	三食とも法人の配食で、法人の栄養士が献立をたて栄養バランスのとれた食事を提供している。法人内で月1回給食委員会を開催し、利用者の希望のメニューや食事の形態、行事の時の弁当の依頼など話し合っている。利用者はテーブル拭き、お盆拭き、食器洗い、デザート盛りつけなどできることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで同じものを食べている。月1回の松花堂弁当、月2回の和菓子アート(季節感のあるお菓子づくり)、誕生会のおやつづくり(さくらもち、たこやき、ホットケーキ)、家族を招待してのバイキング(おはぎ、寿司、麺)、夕涼み会でのソフトクリーム、外出時のお弁当など食事を楽しむことができるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の嗜好を考慮しつつ、食事摂取量、水分量のチェックを行っています。お一人お一人の飲み込みの状態や義歯のあるなし等口腔内の状態に合わせ、ゼリー食、刻み食、一口大刻み食等多様な形態で提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアは行っています。お一人お一人の状態に合わせ、職員が介助させて頂いたり、ご本人に行っていたり、個別対応にて行っています。義歯装着の方は夕食後に必ず消毒を行い、口腔内の清潔を支援しています。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	24時間時系列でその方の排泄状況を把握できる排泄チェック表を活用し、お一人お一人の排泄パターンを掴み、トイレ誘導や声掛けを行うことで、オムツの使用をすることなく、トイレでの排泄を支援しています。	チェックシートを活用して、排泄パターンを把握し、一人ひとりに応じた言葉かけや誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日定時に施設ナースに排便報告を行い、食事、水分、薬、運動の指示を受け、排便のコントロールを行っています。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は原則として月～土まで毎日昼食後より行っています。日曜日は面会されるご家族様が多いことから入浴をしない日となっていますが、ご希望があれば柔軟に対応しています。	入浴は、日曜日以外の毎日、13時から16時までの間可能で、利用者の体調や希望に合わせて入浴を楽しめるように支援している。柚子湯を楽しむこともある。どうしても入浴したくない利用者には日曜日に職員二人体制でシャワーでの対応を試み、少しずつ慣れてもらうなどの支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は1時間毎に夜勤者が各居室を巡回し、ご本人の安全を確認しています。巡回時のご様子を日々のケア記録に記す事で、職員は、お一人お一人の睡眠パターンを把握しています。夜間眠れなかった場合には、日中休んで頂いたり、日中の活動量を増やしてぐっすり眠っていただく支援をしたり、個別の対応を行っています。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、お一人お一人の薬の情報はいつでも確認できるようになっており、使用されているお薬についての認識は十分持っています。お薬が変わった際には迅速に情報を渡してもらい、スタッフ間で共有し、症状の変化を施設ナースに報告しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で裁縫、洗濯物干し、洗濯物たたみ等、作業を依頼し、作業後には必ず感謝の気持ちを伝えます。散歩や外気浴など外でのレクを行い、外の空気を思う存分吸っていただき、気分転換をして頂いています。	テレビ視聴、新聞、ぬり絵、貼り絵、風船バレー、ボーリング、ボールゲーム、リハビリ体操、歌いながら足踏み体操、口腔体操、ことわざクイズ、ことば遊び、パズル、クイズ、書き初め、年賀状や暑中見舞いハガキ、計算ドリル、歌、おしゃべり、回想、玄関先での外気浴、散歩、季節に合わせた飾りづくり、季節の行事（ひな祭り、七夕、運動会、誕生日会）、紙芝居、日本舞踊、フラダンス、楽器演奏などの見学、小学生とのふれあい、洗濯物干し、洗濯物たたみ、洗濯物仕分け、繕い物、野菜の水やり、収穫、テーブル拭き、お盆拭き、食器洗い、デザート盛りつけなど、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、利用者が張り合いや喜びある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出イベントでは、入居者様の馴染みの場所に出かけることを積極的に取り入れています。ご家族にお知らせし、一緒にイベントを楽しんでいただく機会も提供しています。	玄関先のベンチでくつろいだり、おしゃべりや体操をしたり、敷地内を散歩してお地藏さんをお参りしたり、法人内の施設に出かけてボランティアとの交流を楽しんでいる。動物園にお弁当持参で出かけたり、初詣、小学校の運動会、他法人施設のフェスティバル、季節の花見（桜、梅、バラ、つつじ、あじさいなど）など戸外に出かけられるように支援している。家族の協力を得て、外出や買い物の支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内でお金を使用する機会はなく、必要な物、外出時のお小遣い等は、ご家族からのお預かり金より支出しています。現時点で金銭の管理能力がある方は居られず、専らご家族が利用料や医療費等の支払いをされており、ご本人の金銭を管理されている状況です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や書中見舞い作りの支援を行っています。ご家族来苑時に、ご家族の携帯電話を使用して、話をされている時があります。施設の電話の使用も自由になっていますが、今の時点で使用する入居者様は居られない状況です。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の掲示板や玄関に季節のものを飾り、季節感を味わって頂けるよう工夫しています。またご家族の協力により、季節の花をリビングに飾ったりもしています。共有の空間は清潔を保ち、エアコンや加湿器、換気等で室温を調整しています。	共用空間は大きな窓から自然の光が差し込んで明るく、広々としている。窓からは外の景色を眺めることができ、季節の移ろいを感じることができる。リビング中央にはテーブルとイス、テレビの前にはソファを配置している他、玄関先のベンチでおしゃべりや体操をするなど利用者の居場所づくりをしている。玄関やリビングには職員が持参した季節の花を生け、壁面には季節に合わせた作品を飾って季節感を感じる事ができる。温度、湿度、換気、音などに配慮して利用者が居心地良く過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで横になっていただいたり、テレビを観たり、体操レクや外気浴など、お一人お一人に合った過ごし方をさせていただけるよう支援しています。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には家族の写真や思い出の写真を貼っており、馴染みのある人形、馴染みのある小物を持参されご本人に心地よく過ごして頂ける空間作りをお手伝いしています。	イスや衣装かけ、収納ケース、ぬいぐるみ、洋服、帽子、人形など馴染みのものを持ち込み、家族の写真、幼少期の子どもの写真、孫の結婚式の写真、ぬり絵や書き初めの作品、職員からの誕生日のお祝い色紙などを飾って本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかるよう、扉には「トイレ」と張り紙をして、迷うことがないように支援しています。床は段差がなく、壁には手すりを設置しており、安全に移動が出来るようになっています。リビングは居室に囲まれた形になっており、居室は探しやすく、リビングが一望できるため、ご本人が迷った時には迅速に対応できるようになっています。		

2. 目標達成計画

事業所名 大和福祉会 グループホームやまとの里

作成日: 平成 29 年 9 月 21 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	月に一度、法人のデイサービスに來訪しているボランティアを見学、交流を行っているが、事業所独自の日常的な地域の方々との交流を行う機会は少ない。	地域の運動会、文化会等に出向き、地域の方々との交流の機会を多く作る。	運営推進会議などで、地域の行事等の、情報収集を行う。苑の行事などで地域の方々に参加を呼びかける。	1年間
2	35	法人内研修にて、定期的な緊急時の対応を学んでいるが、全職員が応急手当や、初期対応の実践力を身に付けているとはいえない。	全職員が、初期対応や、応急手当の定期的訓練を実施し、事故防止や事故発生時の対応に備えられるようにする。	法人内での定期的な研修の実施。月一回の定例ミーティングにて、繰り返し訓練を行い、実践力が身に付くようにする。	1年間
3	4	職員全員で自己評価に取り組んではいたものの、各項目で担当を決め、一人一人が全項目に取り組み、理解していたとはいえない。	職員一人一人が自己評価全項目に取り組み、外部評価の意義を理解する。	年に一度、全職員が自己評価全項目に取り組む。サービス評価項目ガイド集を参考にして、一つ一つの項目の考え方と、着眼点を理解できるようにする。	1年間
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。